

4学年部会の様子

【4学年部会で大切にしたいこと】

社会、人、問い、対話のそれぞれのつながり

視点①子どものみとりと教師の願いを大切にしたい教材研究

- ・指導要領の内容を把握した上で、児童の見方・考え方の変化や成長を促していくため、多様な児童の意見に対応できるよう、教師自身の引き出しを増やしていくことが大切。
- ・生活とつながり、児童が追究することにつながる教材を選定することも求められる。

視点②子どもが問いを見出し、主体的に学び続ける単元づくり

- ・児童が社会的事象と出会った際に、事実を素直に受け入れてしまい疑問や探究が発生しない場合があることが悩みとして共有された。資料提示の仕方や社会的事象との出会わせ方を工夫することで、児童が疑問を持てるような導入や展開を意図的に設定することが求められると考えられた。

視点③対話を通して学びの深まりを実感できる授業づくり

- ・個々の学びが深まるように授業をコーディネートしていく
新しい資料や事実との出会いによる資料との対話、ペアやグループでの友達との対話、学習を経た振り返りによる自身との対話など、意図的に対話の場面を設定していくことが求められる。そのためにも、自分の考えをもてるようにして、全員が同じ土台に立って考えられるようにする。

【担当校長先生方より】

- ・学びが深まる瞬間とは？
- ・その単元の学びの深まりが他の単元にもつながる＝汎用性
学年ごとのつながり、単元のつながりによって深まっていくが、そのためには教材研究が必要。時代の変化にもアンテナを高くしておく必要がある。
- ・多面的な見方、考え方＝深さであり目的。教材研究や資料はあくまで手段である。
- ・教師が考えるよりよい社会を教えるのではなく、ともに問い続けていくことによってよりよい社会につながっていく。